

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1 ページ】

【Ⅰ. 事業全体の取組について】

上智大学「多層的ハブ機能を有するグローバル・キャンパスの創成と支援ガバナンスの確立」では、本学の教育精神 For Others, with Others を備え、地球的課題に対して果敢にチャレンジする人材を育成する先進的なグローバル教育の展開と実現のための環境整備に取り組んだ。事業の3つの柱の状況は以下の通り。

1. 世界をつなぐ叡智（ソフィア）の醸成：グローバル教育プログラムの整備

海外大学、国際機関、企業との連携が進み、全学生を対象に多層的かつ多様なグローバル教育プログラムを100科目以上提供している。短・長期の留学の機会に加え、国際機関やグローバル企業におけるインターンシップ科目や海外での実践型プログラム等、内容や留学先の拡大と多様化も実現し豊かなグローバルな学びの機会を提供している。また、海外著名大学院への進学を後押しする「海外大学院特別進学制度」や、「3+2プログラム」（国内での学部3年と海外での修士2年を接続したプログラム）を構築し、2016年度から2023年度には前者で計14名、後者で計7名が海外大学院進学を実現した。さらに、SPSF（Sophia Program for Sustainable Futures）－持続可能な未来を考える6学科連携英語コース－を2020年秋に新設し、「持続可能な未来」をテーマにした共通科目に加えて各学科の専攻分野を学ぶことで、地球的課題である持続可能性の問題にグローバルな舞台で貢献できる人材の育成に取り組んでいる。また、本事業で実施したGCP（グローバル・コンピテンシー・プログラム）を発展させ、生涯学び続けるための「基盤」を身に付ける全学教育プログラム「基盤教育」を2022年度新入生より開始した。事業期間中に「大学の世界展開力強化事業」にも採択され、オンラインを活用した国際的な双方向の教育手法であるCOILも積極的に取り入れている。

2. グローバル・キャンパスの創成

留学カウンセリングや危機管理教育等、学生が海外に挑戦しやすくするための支援体制の充実を図り、年間の日本人留学経験者数は採択前の約1.5倍(889人)となった。また、交換留学協定校数は2013年の32か国169校から、2024年3月末には63か国・地域、343校（採択前の倍以上）となり、外国語による科目の増加（採択前924→2023年度1847科目 約2倍）、新たな国際学生寮の設置、日本人学生と外国人留学生の相互交流を促進するプログラムの充実も図られた。学業と生活両面の交流環境の深化等により、年間の受入外国人留学生数は最大2,828名（最終年度は2,480人）に達した。また、本事業で新たにバンコク、ケルン、ニューヨーク、北京、ロサンゼルスに海外拠点を設置した。各拠点での特性を活かし、大学広報やリクルート活動、教育プログラムの構築や実施支援等、「多層的ハブ」としての機能を果たしている。特にバンコク拠点は法人化し、本学の教育のみならず、他大学や高校生にもグローバルな学びの機会を提供するに至っている。

3. 世界に並び立つ教育研究を支援するガバナンス支援

学長選任に関する規則を改正し、理事会任命による学長選任体制を整備した。学長の定める基準で学部長や研究科委員長を選考できる等、教学マネジメントや大学経営全般でリーダーシップを発揮しやすい環境を整えた。IR(Institutional Research)の専担者をおき、教育に関する実態の調査や情報分析を充実させ、戦略立案に活かしている。また、本学のグローバル化における企画立案や実行にあたり、国際通用性のある評価や提言を得るために、国内外の有識者で構成されるアドバイザリーボード（外部評価委員会）を設置し、定期的に開催することにより、グローバル化の方向性や具体的な取組について、示唆に富む提言を得られた。教職員のグローバル化対応能力向上には、教員評価制度の導入や職員を対象としたStaff Developmentの取組み等を実施した。

【Ⅱ. 事業期間での大学の成長（アウトカムとの繋がり）】

本学の中期計画であるグラウンド・レイアウト（Grand Layout 2.0、2.1）においてもグローバル化の推進を主要方針に据え、大学の中期計画を本事業と連動させて取り組むことで、本学の長を伸ばしながら、日本の国際化の伸展にも貢献できる大学へと成長した。学長のリーダーシップのもと、国際通用性のある教養と専門知識を兼ね備え、他者と共に新たな社会を創造し課題に取り組むグローバル市民の育成基盤を整備する方針を示し、グローバル教育プログラムの充実、学生交流の促進、日本人学生と外国人留学生が共に学び合う交流の仕組みの充実を実現したことにより、多様な学生と教職員が集う教育研究拠点のハブが形成され、目的としていたグローバル市民の育成基盤の整備が進んだ。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

【Ⅰ. 事業全般について】

グローバル教育プログラムの充実とサポート体制の強化

本学では、本事業の前から年間 200 名以上が交換留学に参加する等グローバルな学びの機会は豊富だったが、より多くの学生にグローバルな学びの場を提供するため、グローバル教養科目の開講と留学プログラムの実施・支援体制を一体化で扱う組織として、教員組織としてのグローバル教育センター、及び、事務組織としてのグローバル教育推進室を設置した。これらの組織が中心となっており、プログラムの体系化を行い、学生が4年間の中で希望する期間、内容から選択し参加できるようにするとともに、学内の英語での授業受講機会の充実、休暇中の海外語学講座や専門分野を学ぶ研修、実地で学ぶ実践型プログラムの実施、短期から長期まで多様な留学プログラムの充実、国内外の国際機関やグローバルな企業での実習経験を通したインターンシップ・プログラムの強化等を行った。グローバル教育センター所属の教員は、自ら科目を担当するのみならず、国際機関・企業との連携講座のコーディネーターを務めており、センター開講科目は、年間約 100 以上にも及ぶ。留学のサポート体制の強化という観点から、専門カウンセラーによる留学カウンセリングの導入や、学生留学委員会等を通じた事務部署と学部学科の教員との課題共有や対策の検討等を行っている。また、父母・保証人の理解を得ることも重要であり、情報提供を充実させた。

海外拠点の現地法人化による実践的な学びの拡充 自走化と取り組みの横展開

海外拠点としてスタートしたタイ・バンコクの「上智大学 ASEAN ハブセンター」を発展させ、2019 年 4 月に現地法人として、教育支援を中心とする事業会社 Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd. (Sophia GED) を設立し、経営面の自走化を図ると同時に、同国をベースに教育プログラム機能の強化を図った。Sophia GED は、広報活動等をはじめとする本学海外拠点としての運営、本学の東南アジアでの実践型プログラムの充実に加えて国内他大学のプログラム開発を行い、コロナ禍にはオンラインによる多くの研修も実施し、国内他大学の国際教育の継続と実施に大きく貢献した。

また、高校生がテーマを決めて 6 月から 10 か月間、探究に取り組むオンライン学習プログラム「せかい探究部」を 2020 年度より開始し、2023 年までに約 170 人の日本人高校生が国内外から受講している。本学教員らによるレクチャーや本学学生も参画する個別ゼミを受けながら論文を仕上げる探求学習プログラム (<https://jp.sophia-ged.com/iblsupportprogram/>) で、本学との協働講座も開かれる等、新たなスタイルの高大連携企画として、本学学生・高校生の双方への多層的で実践的な学びの機会の提供につながった。

【Ⅱ. コロナ禍への対応について】

・オンラインでのグローバル教育プログラムの提供継続

コロナ禍で来日や再入国が難しい国外在校生や交換留学生にはオンラインでの授業を実施し、2021 年 5 月に約 420 人、2022 年 5 月には約 230 人が海外から受講した。授業用のテキストの海外送付や所属学科でのフォローアップ等、混乱が続く中でも学修環境の整備と充実に努めた。交換留学の受入も 2020 年秋から再開し、2022 年春学期までオンラインでも留学機会を用意した。

学生派遣では、留学中の学生への帰国要請後、2021 年度前半まで海外渡航は中断した。しかし、オンラインの交換留学も可能とした他、2021 年 2 月には短期プログラムも一部をオンラインで再開した。実践型プログラムの「アフリカで学ぶ」、「バンコク国際機関実地研修」「国連の役割と機能」には、オンラインでありながら 2021 年度と 2022 年度で約 100 人が参加し、講座内で複数国の研修先の状況比較を行う機会を得る等、オンラインならではの創造的な学びを経験した。「グローバルインターンシップ」科目でも、国内のグローバル企業や駐日外国公館等の協力で、国際的なキャリアを意識しオンラインで学ぶ機会を提供し続けた。こうした経験は、渡航準備講座でのオンライン活用や、渡航再開後のプログラム充実にもつながった。

・コロナ禍も通じた外部評価委員会の定期開催

2015 年度にスタートした上智学院のグローバル化への評価・提言を行う外部評価委員会（アドバイザーボード）は、国内外有識者約 10 名で構成される会議で、2023 年度第 4 期に至るまで年約 2 回、計 17 回開催した。2020 年 9 月より 2 年間は「ポストコロナ世界における大学の存在意義」や「グローバルリスク、SDGs と大学」等先を見据えたテーマでオンラインの定期開催を行った。産業界や他国のオンライン活用の取組事例やパンデミック後を見据えた助言をいち早くいただき、大学の取組にも忌憚ない意見と専門的知見からの助言を得られたことで、高い目線でグローバル化推進を継続して進めることができた。